

瀬戸市施工75周年記念

# *...se gab sie uns und Reben, Einen Freund geprüft im To Götterfunkene llionen?*

瀬戸第九をうたう会創立20周年記念

交響曲第9番「合唱付」

作品125

2004年4月11日(日)午後2時開演

瀬戸市文化センター文化ホール

主催瀬戸第九をうたう会・瀬戸第九合唱団(主幹団体)

後援瀬戸市・瀬戸市教育委員会・瀬戸市文化協会

瀬戸北ロータリークラブ

## 交響曲第九番 [第4楽章・歓喜の歌]

原詞：フリードリッヒ・シラー 訳詞：松平 朗

O Freunde,nicht diese Töne.  
Sondern lasst uns angenehmere anstimmen,  
Und freudenvollere!

おお友よ この調べではない  
もっと楽しい  
よろこびにみちた歌を皆で歌おう

Freude,schöner Götterfunken,  
Tochter aus Elysium!  
Wir betreten feuer trunken.  
Himmlische, dein Heiligtum!

よろこびよ うるわしい神々の火花よ  
樂園に生まれた娘たちよ  
われらは感動に酔い  
御身の聖なる殿堂へ入ろう

Deine Zauber binden wieder,  
was die Mode streng geteilt,  
alle Menschen werden Brüder.  
wo dein sanfter Flügel weilt.

御身の神秘な力は再び一つにするであろう  
この世の因習に隔たれた人々を  
御身のやさしい翼がやすらぐところに  
人々はみな兄弟となる

Wem der grosse Wurf gelungen,  
eines Freundes Freund zu sein,  
wer ein holdes Weib errungen,  
mische seinen Jubel ein!

大いなる天の恩賜をうけた者たち  
真の友を得た者たち  
貞淑な女性を得た者たち  
よろこびの声に唱和せよ

Ja,wer auch nur eine Seele  
sein nennt auf dem Erdenrund!  
Und wer's nie gekonnt, der stehle  
Weinend sich aus diesem Bund!

いや たった一人でも 地上で  
友をもつ考はよろこびの声に唱和せよ  
それをもたぬ者は  
涙し そっと立去るがよい

Freude trinken alle Wesen  
an den Brusten der Natur,  
alle Guten, alle Bosen  
folgen ihrer Rosenspur.

万物がそのよろこびを  
自然の胸から吸い  
善人も悪人も皆  
バラの花咲くよろこびの道を歩む

Küsse gab sie uns und Reben,  
Einen Freund geprüft im Tod;  
Wollust ward dem Wurm gegeben,  
Und der Cherub steht vor Gott.

自然はすべての人々に愛と酒を与える  
死によっても奪われぬ友を与える  
昆虫さえ快樂は与えられ  
天使ケルビムも神の前でよろこぶ

Froh, wie seine Sonnen fliegen  
Durch des Himmels prächt'gen Plan,  
Laufet, Brüder, eure Bahn,  
freudig wie ein Held zum Siegen.

天の摂理のもと  
多くの星が天空を駆けめぐるがごとく  
同胞よその道を進め  
英雄が凱旋するごとく歓喜して走れ

Seid umschlungen, Millionen!  
Diesen Kuss der ganzen Welt!  
Brüder! über'm Sternenzelt  
Muss ein lieber Vater wohnen.

億万の人々よ 抱き合おう  
全世界にその大いなる愛を与えよう  
同胞よ 星空のかなたに  
愛する神はかならず住みたまうのだ

Ihr stürzt nieder, Millionen?  
Ahnest du den Schöpfer, Welt?  
Such' ihn über'm Sternenzelt!  
Über Sternen muss 'er wohnen.

億万の人々よひざまずくか?  
創造主のいますことを知るか?  
星空のかなたに神を求めよ  
神はかならず住みたまうのだ

# 曲 目 解 説

## この世で見つけた幸せ —ベートーヴェンからのメッセージ—

愛環音楽連盟理事長 都筑正道

瀬戸第九20周年記念演奏会、おめでとうございます。愛環音楽連盟の理事としてもご活躍の加藤洋太郎さんご自身が会長をつとめる本日の演奏会に私たち音楽連盟のメンバーをお招きいただいたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。瀬戸のみなさまと一緒に、瀬戸のみなさまの前にベートーヴェンの「第九交響曲」を演奏できることは、音楽を愛する者にとって最大の喜びです。

**異端の交響曲** ベートーヴェン(1770-1827)の「第九交響曲」(1824)は、終楽章に4人のソリストと合唱が入った異端の交響曲です。「なぜ異端か」と言えば、「シンフォニー」(交響曲)は、もともとオペラを演奏するときに開演前にオーケストラが行う「音合わせ」(sym= 合わせる・fonia= 音)であって、器楽曲のための音楽に限定されていたからです。また、「なぜ交響曲の終楽章に声楽を加えたのか」といえば、この「第九番」が彼の最後の交響曲であり、その終楽章は彼の一連の交響曲の最終楽章でもあるからです。音楽史を少しのぞいただけでも、最後の交響曲の最後の楽章が、結果的にそうなったとしても、その作曲家の従来の交響曲の構成とは全く違った異質なものである例は意外に多いのです。たとえ無意識であっても、交響曲の絶筆となることを予感した作曲家が、その最後の作品の最後の楽章だけ、極めて前例のない破格なものに仕上げたことは、私たちになにか特別な感慨をもたらします。それは、ひょっとすると、後世の私たちに向かれた作曲者からの直接の「遺言」(マニフェスト)なのではなかろうかと思えるからです。

**もっと心楽しく喜びにみちた調べを歌おう** 特に、このベートーヴェンの「第九番」の終楽章こそ、正にベートーヴェンから私たちへ届けられた「メッセージ」であるといつていよいです。例えば、その良い例として、終楽章の長い序奏のあと、テキストとして用いられたシラーの詩が歌いだされる前に、バリトン・ソロがまるで宣言文を読むように朗唱する箇所が挙げられます。「おおわが仲間たちよ、このような調べではなく、もっと心楽しく喜びにみちた調べを歌おうではないか」と歌うこの冒頭での呼び掛けは、シラーの詩を始める前にベートーヴェン自身が書き記した序詞です。この個人的な発言は、言葉を持つ終楽章がベートーヴェンの「マニフェスト」(宣言文)であることをはっきりと現わしているといえましょう。

**シラーの『歓喜の歌』** ベートーヴェンが最後の交響曲の最後の楽章にテキストとして用いたのは、8節からなるシラーの詩『歓喜に寄せる頌歌(しようか)』なのですが、その中から人類愛を力強く贊えた詩句を自由に抜粋して再構成したものです。長い間、ベートーヴェンがこだわり続けてきたシラーの詩は、やっとのことで最後の交響曲に生を受けることとなります。1824年5月7日ケルントナートール劇場で初演されたときには、それが時代をはるかに先取りしていたために、すべての人から理解され祝福された誕生とはなりませんでした。当時の人々にとってこの詩は、大衆になじみ深い宗教詩でも聖句でも古典詩でもない、彼らと同時代の詩人フリードリッヒ・シラー(1759-1805)の啓蒙思想やフリーメイソンの信念を語る現代詩がありました。このことが、当時のウィーンの人々に、この曲を「難解」なものと感じさせた原因のひとつでもあります。

**歓喜は神々の火花である** しかし、ベートーヴェンは、最後の交響曲が理解されないままに終わることを恐れず、あくまでも言葉によるメッセージの必要性を主張し、最後までその主張を放棄しませんでした。この曲には何か、人間として、作曲家として、

社会に対して果さねばならぬベートーヴェンの「義務の念」といったものが強く感じられるからです。ここで私たちは、次の挿話を思い出します。ある人が、シェーンベルクに訊ねました—「どういう訳でベートーヴェンは、「第九交響曲」を乱雑だといわれながらも、書きつけたのですか」。彼は言いました、「答は一つしか知らない。言わねばならぬことがあったからだ」。正にその通りで、彼には言わねばならぬことがあったのです。冒頭の1節「歓喜は神々の火花である」がそれです。ここでの「歓喜」は、私たちが日ごろ思っているような、食べたり飲んだり遊んだりの「快楽」や「欲望」の結果としての「歓喜」のことではありません。詩をよく読んで見ますと、「欲望はウジ虫にくれてやった」という一節もあり、個人的な快楽や欲望をはっきり否定しています。

**共通体験から生まれる感動** シラーの言う「歓喜」とは、個人を離れて理想的な人類愛をめざす、極めて精神的な満足感や充実感を言うのでしよう。一人の友と眞の友人になった人、一人の優しい女性を勝ち得た人、その人の心が自分のものだと言える人—こう言った人々こそ「歓喜」を知った人たちです。この歓びの感情を知った人たちだけが、兄弟となるのです。鉄と鉄がガスや電気のバーナーで何千度にも熱せられると、どろどろと溶けだしてお互いがくっ付くように、普段は別々の興味や考え方をもつ人たちでも、「子どもが生まれた」「試験に受かった」「日本人がノーベル賞をもらった」となるとみんなが肩を抱き合って大喜びをします。なんであっても、なにか共通の喜びがあれば、それが火花となってすべて人の心を溶かし、思いを一つに結びつけるのです。すなわち、「歓喜」は「共通体験から生まれる感動」のことだといつていよいです。

**理想的な人類愛** さらに、「歓喜は、また、樂園からやってきた乙女だ。神々の火花によって、私たちが火のように酔うならば、そこで初めて歓喜の聖域に踏み込むことができるのだ」とシラーは歌います。「人類の心はもともと一つであったのだ。それが戦争や飢餓や恐慌や独裁といった時の流れで、今までの友が新たなる敵となり、仲間が仲間を殺したり嘲ったり軽蔑したりするようになったのだ」と。それほど激しく憎み合い、もう修復が効かなくなってしまった関係であっても、「歓喜はまた再び私たちの心を結び合わせてくれる。これを魔法の力と言わずして何といおうか!」とシラーは人類の心の底に流れる歓喜の力を力説しているのです。もちろん、これはベートーヴェンのマニフェストでもあります。すなわち、個人を離れて理想的な人類愛をめざす、極めて精神的な満足感や充実感のことです。さらに、彼はいいます—「歓喜とはなにか。それは、この世で幸せを見ついたことをいうのだ、例えば、眞の友を得た人、優しい女性と結婚した人、だれかに確かに愛されていると感じる人こそ、歓喜を知る人なのだ。もしあなたが、このどれも知らないのならば、私たちの仲間にすることはできない。涙を流して去っていきなさい」と。

さあ、私たちはこのシラーとベートーヴェンのメッセージに對してどう答えればいいのでしょうか。それを、本日の瀬戸第九20周年記念演奏会を聴きながら一緒に考えてみることにいたします。



## ごあいさつ

瀬戸第九を歌う会 会長 加藤 洪太郎

各界の皆様のご理解とご支援により瀬戸第九をうたう会も今年創立20周年を迎えることができました。人間で云えば成人式です。会員一同、心より感謝を申し上げます。

20年前、一説には「音楽文化、果つるまち」などとまで囁かれていた瀬戸で、「第九をうたおう！」と集まって、文字通り無から有を創り出した先輩諸氏の意気と先駆性に導かれた大勢の協力が今日の姿をもたらしました。

「第九が聴けるまちならお嫁に行ってもいい」という都会の娘さんを東京から連れ帰った瀬戸出身の若者があります。全国を転勤して歩いた末の定年退職後の住処を、「第九が歌えることも理由の一つ」として瀬戸に選んだ熟年者もいます。瀬戸周辺に転勤してきて、その間を市民オケ団員として過ごし、再び他に転勤していった仲間は、終生“せと”を忘れませんし、交流は続きます。

音楽のあるまち“せと”となりつつあることをお互いに喜びあい感謝しあいたいと思います。

さて、次の20年はどう歩むのでしょうか。来るべき2024年の40周年の折りには、いかなる“せと”にしているでしょうか？永いようで短い、短いようで永いのが20年と云う歳月です。

第九をうたう会は、次の指針で進もうとしています。

- 1 音楽文化を楽しみ潤いのある人生を築くことを互いに支えあい励ましあう。
- 2 市民のみなさまと広く協調・協力しあい、ともに会を発展させる。
- 3 音楽文化の向上に寄与することにより、地域社会に貢献する。
- 4 自主・民主・公開・協力・責任の原則によって運営する。

日本全国そして世界との交流ある文化豊かなまち作り、であればこそ地域経済も活発化する地域社会の建設に、わずかでも寄与できれば幸いです。

まずは、来年7月には国際博にあわせた『瀬戸市街地文化月間』の一環として、日本全国と世界に開かれた“せと第九”を企画中ですので、皆様の変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申しあげます。

瀬戸第九合唱団 団長 加藤 洋太郎

瀬戸第九をうたう会もお陰をもちまして創立20年を迎えました。

本日、ここに記念すべき演奏会を愛環音楽連盟の人々の参加協力により、盛大に開催いたしましたことは感謝にたえません。

瀬戸第九をうたう会発足からベートーヴェンの「第九」をうたい続けて今回で14回になり、小澤征爾・外山雄三・小林研一郎などの有名指揮者で演奏したこともあります。また、瀬戸市制施行65周年記念ではヘンデル作曲「メサイア」を、愛環音楽連盟では「カルメン」・「こうもり」に参加いたしました。

来年2005年日本国際博覧会が開催されます。それにともない瀬戸第九合唱団も積極的に参加いたします。特に瀬戸市街地区におけるイベントなど依頼をお待ちしています。音楽を通して潤いのある街づくりの一助になればと活動しております。皆様の変わらぬご声援を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

## お祝いの言葉

瀬戸市長 増岡 錦也

葉桜の緑が明るい季節となりましたが、本日ここ瀬戸市文化センター文化ホールにおきまして、「瀬戸第九をうたう会創立20周年第九演奏会」が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。瀬戸策九をうたう会は、昭和59年に発足されて以来、地域に根ざした多くの演奏活動をとおして、たくさんの市民の方々に素晴らしい歌声を披露してこられ、本市の音楽文化振興に大きく貢献してこられました。これも、音楽を心から愛し、音楽に情熱を傾けておられる会員の皆様はじめ、関係各位のご尽力とご努力の賜物と深く敬意を表する次第であります。本日は、20年間の活動の集大成として、ベートーヴェン作曲の「第九交響曲」をお聞かせいただけるとうかがっております。これまでの練習の成果を存分に發揮され、私どもの心に安らぎと感動を与えていただき、音楽の素晴らしさを実感させていただけるような素晴らしい演奏になるものと大変楽しみにしております。また今回は、特別に愛環音楽連盟の方々も参加され、地域を越えた交流もなされていることは、素晴らしいことだと思います。さて、瀬戸市では2005年に開催されます愛・地球博を好機とし、芸術性豊かなまちを市民の皆様とともに創りあげていきたいと考えております。そのためには、本日ご出演の皆様におかれましては、音楽を通じた交流の輪を広げていただき、人の心と心が触れ合うまちづくりに積極的にかかわっていただければと願っているところです。終わりに、貴会の皆様におかれましては、今後ともご活躍いただくとともに、本日の演奏会のご盛祝とご出演の皆様の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

瀬戸北ロータリークラブ会長 加藤 恒彦

この美しい図柄のレコードは、私が高校2年生のクリスマスに手にいれたものです。アルトウール・トスカニーニ指揮N.B.C.交響楽団によるベートーベンの第九交響曲です。私が買った二枚目のレコードです。一枚目はやはりベートーベンの第五交響曲“運命”でした。私は、二人の人間が抱き合うこの美しい図柄が気に入っています。現在まで持ち続けておりますが、この絵の意味するところが解ったのは30年以上ものちのことでした。

”合唱が初めての方でも親切に教えます”と云う瀬戸第九合唱団の募集広告を迂闊にも真に受けて、入団したのであります。その後の苦労は大変なもので、多くの第九合唱団員が私と同じ経験をなさっていると思います。

”Seid Umschlungen.Millionen !

Seid Umschlungen.Brüder !

幾百万の人々よ抱き合え、兄弟よ抱き合え”

と云うベートーベンの主題がこのレコード・ジャケットの図柄になっていたのです。

ロータリークラブでは例会のときに”手に手つないでつくる友の輪。手に手つないで広がれ、まわれ、世界とともに”と歌います。180年前にベートーベンが目指したものを作りたいとおもって、ロータリークラブも目指しているのであります。

この度は、瀬戸北ロータリークラブ創立25周年記念事業の一つとして、瀬戸第九演奏会のお役に立つことができまして会員一同とても喜んでおります。演奏会の成功を祈ります。

”Au die Freude”



## 演奏者のプロフィール

### 指揮者 山田 信芳



愛知県立芸術大学声楽科卒業。神田詩朗・西野隆三・村田健司・木下武久、各氏に声楽を師事。合唱団・プラスバンド・オーケストラと多くの団体を指揮。井上道義・古谷誠一・竹本泰蔵・牧村邦彦・松尾葉子・フォルカーレニッケのアシスタントとして多くの舞台作品の制作に参加、現在に至る。1997年よりドイツの重鎮クルトレーデルに指揮法を師事。以後ヨーロッパ夏の講習会では、毎回ファイナルコンサートに出演し、チャイコフスキイ・シュトラウス・バルトーク・ストラビンスキイ、ブリテン・メンデルスゾーン等の作品を指揮し多くを学ぶ。

2000年、師の国際指揮コンクール・東京(5月)及び、ブタペスト(8月)において1位を受賞。

2001年ウクライナ国立リヴィウフィルハーモニー・オーケストラのベートーベンフェスティバルに招かれ、交響曲1・2・3・4・8番とシューベルト200合唱団を率い、シューベルトのミサ曲変イ長調(第5番)を指揮。『瞬く間に聴衆を彼の流儀である素直さ、あふれる生氣、造形性、過剰すぎず不自然さのない芸術性でとりこにした』と評された。また、昨夏ドイツ、デュルクハイムからの招待を受け、デュルクハイム・バーデンバーデン両市でモーツアルト『リンツシンフォニー』・シューベルトミサ第6番等を指揮。成功を収める。現在多くの合唱団・プラスバンド等を指揮、南山国際高等中学校勤務。



ソプラノ

### 小林 史子

愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業。「桑原賞受賞」。同大学院修了。ロータリー財団奨学生としてイタリアに留学。ヴェルディ音楽院卒業。1980年フランス音楽コンクール第一位。1984年アドリア国際コンクール、F.P.Nglia国際コンクール入賞。ヴィ

オッティ国際コンクール入選。1988年第165回名古屋市民の劇場オペラ公演「ラ・ボエーム」のミミ役でオペラデビュー。その後「修道女アンジェリカ」「フィガロの結婚」「蝶々婦人」「こうもり」、「コシ・ファン・トゥッテ」、「ドン・ジョヴァンニ」、「椿姫」などのオペラに出演。またヴェルディ「レクイエム」、モーツアルト「レクイエム」「戴冠ミサ」、ブリテン「戦争レクイエム」メンデルスゾーン劇音楽「真夏の夜の夢」、ベートーベン「第9」などのソリストとして、多くの作品に出演。イタリアの作曲家の作品を中心に、バロックから近代までの幅広いレパートリーをもつ。後藤むつみ、稲葉裕三、神田幸子、中村浩子、R.Ricci、A.M.Castiglioni、沖野真理子、神田詩朗、宇田川貞夫の各氏に師事。名古屋音楽大学、愛知県立芸術大学非常勤講師。三重オペラ協会ソリスト会員。



メゾ・ソプラノ

### 河野めぐみ

東京芸術大学卒業同大学院終了。Rエリー、横山修司、後藤寿子、松浦京子の諸氏に師事。リクルートスカラシップ生として1996年より1年間イタリアへ留学。同年ブッセートにてヴェルディの声楽国際コンクールで第1位受賞。藤原歌劇団に1993年『ルチア』でデビューし、以後「椿姫」「ファウスト」「蝶々夫人」「カルメン」「マクベス」等に出演。新国立劇場では「リゴレット」「エフゲニー・オネーギン」「ルチア」小劇場シリーズで「花言葉」等に出演している。海外では1997年ザルツブルグにてモーツアルテウム大学主催「小莊巣ミサ」のアルト・ソロ、2003年日本・ベトナム外交樹立30周年記念公演としてベトナム国立オペラハウスでの「第九」等で歌っている。藤原歌劇団員。



テノール

### 神田 豊壽

愛知県立芸術大学大学院修了。二神二郎氏に師事。

「魔笛」タミーノ、「秘密の結婚」パオリーノ、「ドンジョバニー」(オッターヴォ)に出演。名古屋オペラ協会「夕鶴」(与ひよう)、「袈裟と盛遠」(義清)に客演。ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」の独唱など、名古屋を中心におペラ、オーケストラとの共演、コンサート活動を続ける。

現在、瀬戸メサイア合唱団、藤ヶ丘コーラス、楽しく歌おう会、稲沢ざざんか合唱団、愛知学院大学グリークラブなどの合唱団を指導している。音楽アンサンブル「コール・コラーレ」所属。



バリトン

### ゲオルク・レーナー GEORG LEHNER

ゲオルク・レーナーはウィーンに生まれた。オーボエを学びオーボイストとしてウィーン交響楽団、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団などで活躍した後、声楽に転向する。

ウィーン国立音楽大学でヒルデ・レッセル・マイダン、クリント・マルム、フルター・ベリーの各教授に師事。ジェームス・キング、マーレナ・マレ、トム・クラウゼのマスタークラスを受講。

リリック・バリトンとしてオペラ、オペレッタ、歌曲、宗教音楽の分野で活躍する。ヨーロッパの他日本、アメリカなどで数多くの演奏会、ラジオ、テレビ、CD、ビデオ番組に出演。

## 愛環音楽連盟

愛知環状鉄道によって結ばれた4都市（岡崎市・豊田市・瀬戸市・春日井市）で活動するアマチュアオーケストラ・合唱団が7団体で、1977年春に「愛環音楽連盟」を設立。

国内外の優れた演奏家・指揮者を招いて、技術の研鑽に努めるとともに、各市の市民に優れた音楽文化を提供することを目的として、活動を続けてきました。

加盟団体は、現在「岡崎フィルハーモニー管弦楽団」・「岡崎第九をうたう会」・「豊田市民合唱団」・「瀬戸第九をうたう会」・「春日井市交響楽団」・「春日井第九合唱団」で、音楽好きの仲間が集い、「音楽への愛」と「人類愛」とで結ばれた「愛の環」を大切に育てながら、

4都市を中心とする音楽ファンの皆様に楽しんで頂ける演奏会を開催しております。また現在は来年の「愛・地球博」会場での演奏会が開催できるよう努力を続けております。

主な演奏会は次のとおりです。

1997年9月 4日 愛環第九「オペラ・アリアの夕べ」

1997年9月 7日 愛環「千人の第九」

1998年9月 8日 第1回愛環音楽祭

2000年3月 5日 第2回愛環音楽祭「オルロフスキイ邸へようこそ」

2000年8月 31日 愛環第九「ガラ・コンサート」

2000年9月 3日 第2回愛環「千人の第九」

2001年3月 5日 第3回愛環音楽祭「ベートーヴェンの贈り物～第九への道」

2002年9月 29日 第4回愛環音楽祭「カルメン」



電気文化会館ザ・コンサートホール

愛知県芸術劇場大ホール

瀬戸市文化センター文化ホール

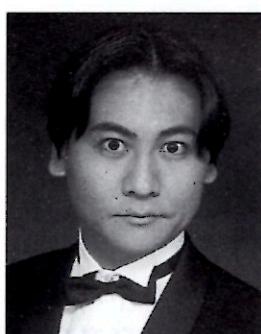
春日井市民文化会館ホール

しらかわホール

愛知県芸術劇場大ホール

岡崎市民会館ホール

豊田市民文化会館大ホール



合唱指導

松下 伸也

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学院修了。学生時代より合唱団の指導を始め、現在までに安城アカデミーコーラス、碧南ファンタジーコーラス、西尾第九合唱団、瀬戸第九合唱団、華音合唱団、名古屋アカデミー合唱団、稲沢さざんか合唱団等の合唱指導、ヴォイストレーニング、合唱指揮を行うほか中学校等の合唱団のコンクール前の臨時特別講師として指導団体を優秀な成績に導く。また一昨年9月にはNHK「BSにほんのうた」の瀬戸市での公開録画に際し瀬戸フェスティバル合唱団の指導をし、その短期間での指導で団員および番組から高い評価を受けた。演奏家としての活動も多く、今年6月には伏見・電気文化会館に於いてリサイタルが予定されている。桜花学園大学講師。



ピアノ伴奏

天野 雅子

愛知県立芸術大学卒業。同大学大学院音楽研究科修了。大学在学中より、伴奏・室内楽を中心に演奏活動を行う。2004年、中部日本交響楽団とモーツアルトのピアノ協奏曲を協演。これまでに、宇都宮淑子、加藤美緒子（故）、ヘンリエッタ・ミルヴィスの各氏に師事。

瀬戸第九を歌う会、名古屋市民コーラス、ヘンデル協会ピアニスト。甲陽音楽学院講師。

# 瀬戸第九のあゆみ

## 第1回

1984年12月8日(土)

指揮者 外山雄三  
ベートーヴェン  
「エグモント」序曲 作品84  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 山本みよ子  
アルト 菅沼綾子  
テノール 大野憲一  
バリトン 高橋啓三  
合唱指導 山田信芳  
ピアノ 森 浩美

## 第2回

1985年12月27日(金)

指揮者 サー・アレクサンダー・ギブソン  
ベートーヴェン  
「レオノーレ」第3番  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 大島洋子  
アルト 志村年子  
テノール 林 誠  
バリトン 木村俊光  
合唱指導 山田信芳  
ピアノ 森 浩美

## 第3回

1986年12月18日(木)

指揮者 井上道義  
ベートーヴェン  
「コリオラン」序曲 作品62  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 羽田裕美子  
アルト 伊原直子  
テノール 大野徹也  
バリトン 高橋啓三  
合唱指導 山田信芳  
ピアノ 近藤浩美

## 第4回

1987年12月26日(土)

指揮者 小沢征爾  
ベートーヴェン  
「レオノーレ」序曲 第3番  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 豊田喜代美  
アルト 西 明美  
テノール 藤田雅之  
バリトン 池田直樹  
合唱指導 山田信芳  
ピアノ 小野悦子

## 第5回

1988年12月10日(土)

指揮者 外山雄三  
ベートーヴェン  
「エグモント」序曲  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 山本みよ子  
アルト 菅沼綾子  
テノール 大野憲一  
バリトン 沢脇達晴  
合唱指導 山田信芳  
ピアノ 小野悦子

## 第6回

1989年12月8日(金)

指揮者 外山雄三  
ベートーヴェン  
「レオノーレ」序曲 第3番  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 山本みよ子  
アルト 菅沼綾子  
テノール 大野憲一  
バリトン 妹尾 樹  
合唱指導 山田信芳  
ピアノ 水野みか

## 第7回

1990年12月27日(木)

指揮者 モーシェ・アツモン  
ベートーヴェン  
「フィデリオ」序曲 作品72  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 山本みよ子  
アルト 菅沼綾子  
テノール 大野憲一  
バリトン 奥村晃平  
合唱指導 江原滋樹  
ピアノ 水野みか

## 第8回

1991年12月21日(土)

指揮者 小林研一郎  
ベートーヴェン  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 山本みよ子  
アルト 菅沼綾子  
テノール 大野憲一  
バリトン 妹尾 樹  
合唱指導 江原滋樹  
ピアノ 水野みか

## 第9回

1992年12月16日(水)

指揮者 手塚幸紀  
ベートーヴェン  
「プロメテウスの創造物」序曲 作品43  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 名古屋木実  
アルト 大橋多美子  
テノール 大野憲一  
バリトン 木村俊光  
合唱指導 西野 隆  
ピアノ 石川ひとみ

第10回 記念演奏会  
1993年11月28日(日)

指揮者 飯守泰次郎  
ベートーヴェン  
「レオノーレ」序曲 第2番 作品72a  
交響曲 第9番二短調「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 豊田喜代美  
アルト 大橋多美子  
テノール 大野憲一  
バリトン 池田直樹  
合唱指導 山田信芳  
ピアノ 石川ひとみ

第11回  
1997年4月27日(日)

指揮者 吉田年一  
ベートーヴェン  
交響曲 第9番二短調 作品125「合唱付」  
演奏者 濑戸市民オーケストラ

ソプラノ 山口雅子  
アルト 山口美智子  
テノール 大野憲一  
バリトン 岡本茂朗  
合唱指導 松本俊彦  
ピアノ 馬場浩子

創立15周年記念演奏会  
1998年11月29日(日)

指揮者 手塚幸紀  
ベートーヴェン  
「エグモント」序曲 作品84  
交響曲 第9番二短調 作品125「合唱付」  
演奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 飯田実千代  
アルト 三輪陽子  
テノール 神田豊壽  
バリトン 林 剛一  
合唱指導 中村貴志  
ピアノ 天野雅子

第13回  
2001年12月16日(日)

指揮者 西田博  
ワーグナー  
楽劇「ニュルンベルクのマイスター」  
ベートーヴェン  
交響曲 第9番二短調 作品125「合唱付」  
奏者 名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ 飯田実千代  
アルト 谷田育代  
テノール 神田豊壽  
バリトン 林 剛一  
合唱指導 松下伸也  
ピアノ 天野雅子

## 瀬戸第九合唱団

昭和59年(1984)に創立された「瀬戸第九をうたう会」の構成団体の一つである。瀬戸第九合唱団は1984年の第1回「第九演奏会」から始まり、今回で14回目の「第九演奏会」となります。第九合唱団は『第九』演奏にとどまらず、いろいろな音楽演奏会に参加、愛環音楽連



盟の一員として積極的に参加、瀬戸市及びその周辺の音楽文化への貢献をしたいものと思っています。



Küs

Freude schöner

Ihr strüzt nieder, Mille Menschen werden Brder.

wo dein sanfter Flügel weil

Seid umschlungen  
iesen Kuss

Himmli

Brüder! der g

über'm Sternenzelt

im Tod:

durch d

Virbi